

本堂等改修工事施行業者決定!!

2010年12月13日、見積入札の受付が行われました。輪番、大谷博改修委員長、専門委員5名が立ち会い、指名をした12社すべてから見積を受け取りました。

開封し審議の結果、本堂等建物改修工事を施行する業者は、新谷建設(旭川)を中心とした荒井建設・高組・生駒組との共同企業体に決定しました。

お内陣の改修工事を担当する業者は、若林製作所(京都)・京仏具小堀(京都)・脇坂仏具店(旭川)の3社共同で行うことが決定しました。



次回もお楽しみに(^o^)/

調査員：草部・垣原・横井よ・長尾・高橋
2011年1月6日作成

別院しらべ隊

調査報告書No.13 新たなる一歩

この『別院しらべ隊』が始まりまして、一年が経ちました。始まりました当初と比べ、今ではご門徒の皆さんに受け入れて頂いた様で、月忌参りをしていますと声をかけて頂き、記事に関しての感想を言ってもらったり、もっと深い内容の事を教えてもらったりと、皆さんの関心の深さが伺え有り難いかぎりです。

今、一年が経ちスタッフ一同初心に戻り、私たちがこの『別院しらべ隊』で一体何がしたいのか？何を伝えたいのか、自身の『別院しらべ隊』との向き合い方を吟味せずにはおれません。

本堂にしても大門にしても、ただ建っているだけで差程気にかける事がなかったのですが、建てようと思った方の願い、建てた方の願い、お手伝い頂いた方の願いが、形となってそこにたたずんでいるのだと思います。そのことに気付くことによって、単なる建物から、大切な建物へとなるのだろうと痛感させられました。



参詣者として…

旭川別院に参詣して頂いているご門徒の多くは車で来られており、車から降りると真っ先に納骨堂に向かってはいませんか？本堂へお参りに来られる方は、定例等の法座・行事以外、非常に少ないものです。このような状況の中、真宗門徒として、参詣してほしいと願われた先達の想いと心得を考えていきたいと思えます。

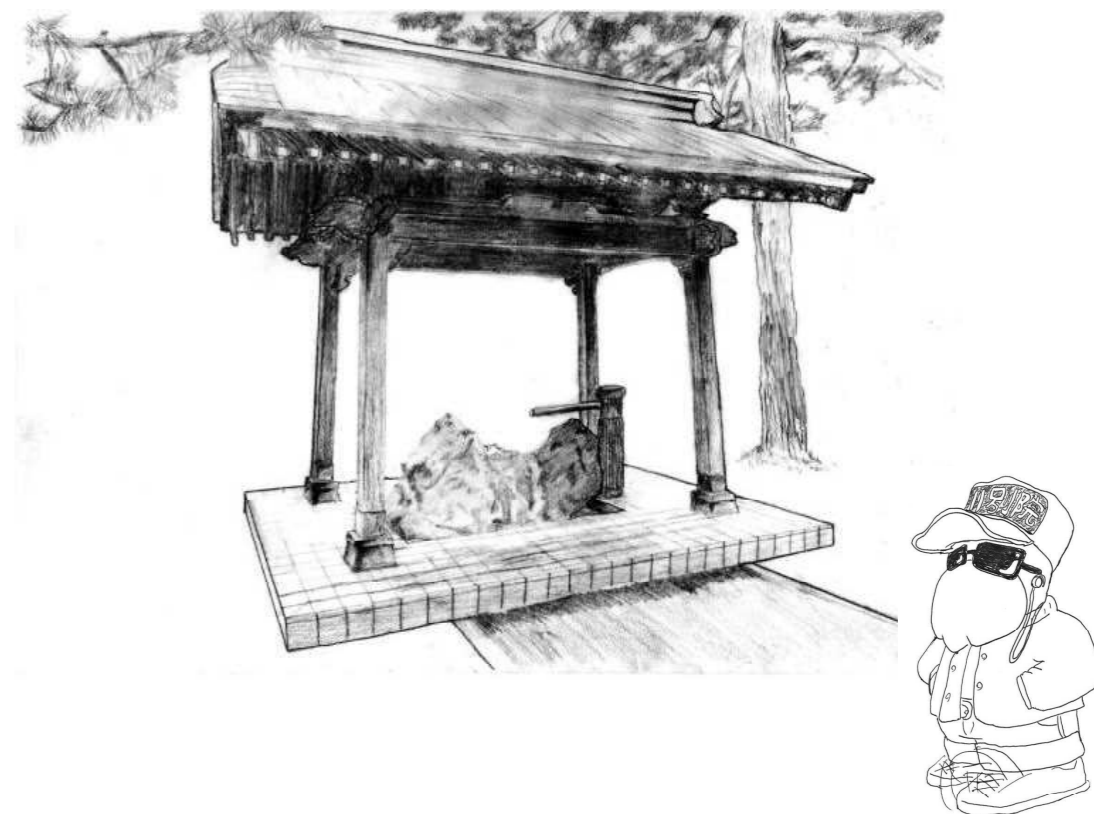
最初に通るのは大門です。真宗本廟では阿弥陀堂門と御影堂門が建てられています。御影堂門の上層には「釈迦三尊像(釈迦如来・弥勒菩薩・阿難尊者)」が安置されており、『仏説無量寿経』の世界を表しています。大門を通るということは、自分の思い通りにいかず苦しみの中で生きている私たちに、仏の教えによってこの私に浄土の世界が開かれてほしいという想いがあるのです。この大門から本堂に向かって一礼します。

大門と本堂の間には手水舎があります。インド等では沐浴という形がありますが、娑婆で触れてきた手をここで洗い流します。

境内の中心には本堂があります。真宗本廟には御本尊が安置されている「阿弥陀堂」と親鸞聖人が安置されている「御影堂」があります。両堂が一つになった形が一般寺院の本堂となります。まず出入口で御本尊に向かって一礼してから本堂に入り、参詣席に座ったら合掌一礼。本堂を出るときにも出入口にて御本尊に向かって一礼します。

納骨堂へのお参りだけではなく、私たち一人一人に「気付いてくれ」と呼びかけてくれている阿弥陀如来に合掌していく姿こそが、真宗門徒としての恭敬心のあらわれではないでしょうか。

手水舎



旭川別院百年史によると、1935年(昭和10年)に手洗鉢を敬信講・女人講が寄進し、手水舎を設置している。

神社等では口をすすぎ手を洗い身を清める為の場所であるが、お寺に於いても、手を洗うことで仏前に身を置く準備をする場所である。

手洗鉢の石は「神居古潭石」で、水石または庭石として珍重されており、北海道を代表する“銘石”である。特徴は、油石といわれるほど磨かなくても滑らかな肌と豊潤な光沢に富んでいる。この手洗鉢を寄進した「敬信講」「女人講」は、昭和10年当時の毎月定例として仏法を学ぶ【お講】であった。